Newsletter from the Free Workers' Federation

自由労働者連合

la Federacio de ChifonProletoj

BOTTOMS

第21号

Autumn, 2021

P・アルシノフ著『マフノ運動史』を読み終えて

浦底平吹

読了後にまず思ったことは、ウクライナ革命に敵対する白軍と赤軍という左右の反革命軍に挟撃され続けたあの戦乱の中で、数多くの重要な資料や会議録等を幾度も戦火に焼かれ失いながらも、不屈の闘志を燃やして再起し、よくぞこれほどの貴重な歴史書を残してくれたとアルシノフに感謝したい。

亡命後、『マフノ運動史』は欧州各地のアナキストらの助力によってヨーロッパ諸言語に翻訳され、アルシノフはネストル・マフノとともに『労働者の事業』を発行するなど精力的に活動した。亡命から10年後、アルシノフは「黒色インターナショナル」と訣別して1931年にスターリン支配下のソ連へ回帰し、1935年6月30日の『イズヴェスチヤ』に「アナキズムの破産」という小論を寄稿した。ボルシェヴィキ=ソ連共産党はアルシノフのこの記事を反アナキズムのプロパガンダに利用したが、その小論掲載後、アルシノフは行方不明となる。シベリアのラーゲリ送りか銃殺刑がロシアに残ったアナキストやその家族の大体の末路なのだが、恐らくアルシノフもその一人なのだろう。

サン・ティミエ・インターナショナル（1872－1877）以降も幾つかの国際会議が開催され、欧州の諸政府やブルジョワジーを震撼させた「黒色インターナショナル」が幽霊のように欧州に影を落とした。ロシア赤軍に敗北したマフノらウクライナ革命反乱軍の生き残りやロシアから亡命したアナキストたちもこれに合流したのだが、「黒色インターナショナル」と亡命後のアルシノフやマフノ、ヴォーリンらの活動のこと、そしてマフノ亡命後もボルシェヴィキ政府や赤軍に抵抗を続けた農民パルチザン部隊、グリャイポーレなど南部ウクライナの農民たちのその後については別の機会に述べることにする。

マフノ運動の特質

本稿では、マフノ運動の特質について見ておきたい。

マフノ運動と呼ばれる南部ウクライナのアナキズム革命運動は、農民の革命運動という性格が強い。元々、モスクワやキエフなどの国家権力に縛られることを嫌うコサックの伝統的な自由自治的気質と、帝政ロシアの農奴制度の支配から逃れてロシアの支配圏外を自分たちで開拓してきた自負とを持つウクライナの農民は、ロシアやリトアニア、ポーランド、オーストリア＝ハンガリーなど周辺列強に絶えず侵略され、様々な国々の貴族らに土地を略奪され、支配と収奪を受け続けていた。ウクライナの農民たちはそれら帝国や貴族の支配からの解放を求めて各地で次々に蜂起した。農民のその革命的奔流を天才的戦術家マフノの軍事行動とアナキズムで方向付け、ウクライナ農民革命=農民戦争へと導いた大きな結晶がマフノ運動である。

次にマフノ運動の組織論を見ておく。マフノ運動は①ウクライナ革命反乱軍と、②ウクライナ革命評議会の２つを大きな基軸として、ウクライナ革命を推し進めた。①のいわゆる「マフノ軍」は初めグリャイポーレの農民とマフノら少数のアナキストによって編成され、グリャイポーレとその周辺の村の大地主や教会など支配勢力とその後ろ楯であるロシアやオーストリア、ドイツ軍などの軍隊を粉砕しながら農地や工場を解放し、農民たちは自らの農地を手に入れた。この成功

はマフノの才覚によるところが大きい。やがて各地で蜂起していた農民がマフノ軍に合流し、南部ウクライナ全域に革命運動が広がり、自由ソビエトや自由コミューンが各地で建設され、グリャイポーレでウクライナ農民兵士大会が 4 度開催された。大会において②のウクライナ革命評議会の設立と評議員が選出され、大会で決議されたことを執行した。南部ウクライナ全域に広がったマフノ軍の解放区の人口は 200 万人を数えた。

ウクライナ革命の解放区とボルシェヴィキ軍、白軍

革命の前進にともなう反動勢力の動きも早く、「南部ウクライナ解放区」は白軍との対峙を迫られることになる。農民蜂起によって軍隊や警察、地主自警団から奪った武器弾薬しか持たないマフノ軍は、兵力の消耗も激しく、やがてモスクワから南下侵攻してきたロシア赤軍との緊張関係をも抱えなければならなかった。元々、ウクライナにボルシェヴィキの地盤はほとんどなく、ケレンスキー臨時政府崩壊とともにキエフの実権を掌握したペトリューラらの「ウクライナ人民共和国」に対抗し、モスクワからのボルシェヴィキ遠征軍が純軍事的にハリコフに入城して「ウクライナ・ソヴィエト共和国」を宣言した。やがてハリコフを拠点にしたボルシェヴィキはすでに解放されていたウクライナ各地に侵攻し、農村や都市に「革命委員会」という権力機関をつくり、法令を出して農民から再び農地を奪って旧地主に返還するなどの取り締まりを始めて、農民蜂起がアナキズム的自治へと向かうことを押さえ込もうとした。また、「貧農委員会」の名の下に農民から収穫物を奪って鉄道貨物でモスクワへと輸送し、ウクライナ農民に帝政ロシア時代同様の過酷な収奪と飢餓状態を強いた。

ハリコフ政府の赤軍をモスクワへ敗走させたデニーキンの反革命軍(白軍)を、1919 年秋にマフノ軍は決定的に粉砕してクリミア半島へと追い落とし、ブルジョワ民族主義派で独墺にウクライナの穀倉地帯を売り渡した帝国主義列強の傀儡キエフ政府のペトリューラ軍を西部国境まで追い払った。この瞬間、革命ウクライナは事実上の無政府状態へと突入した。だが、マフノ等はウクライナ各地の農民反乱軍や革命的自治コミューンを糾合して革命ウクライナを防衛する決定的機運を掴まずにグリャイポーレへ帰ってしまった。彼らが束の間の、だがマフノ運動史上最大の転機となり得たこの 2 週間を無駄に過ごしている間に、息を吹き返したボルシェヴィキのロシア赤軍がモスクワから再びウクライナへ侵攻してきてハリコフを再占領した。また、クリミア半島に逃げた白軍残党もウランゲリの下に再編されて南部ウクライナの自治コミューンの村々への攻撃を再開した。

全ウクライナ解放とマフノ運動の欠陥

何故、革命ウクライナの決定的機運をマフノらは逃したのか？チフスの蔓延によってマフノ軍の 50%が感染し、司令部全体とマフノ自身も入院していたとしてもである。アルシノフは本書で、マフノ軍がデニーキン軍に西部ウクライナ奥地へと追い込まれ、そこにいた誰もがもう負けると思った時に突如反転攻勢をかけたマフノのゲリラ戦術によって奇跡的にデニーキン軍を粉砕した為、皆が勝利の美酒に酔っており、何発もの銃弾を受けて満身創痍のマフノも次の手を打たず、為すべきことを放棄してしまったという。アルシノフのこの総括は、次の点を導き出せる。①マフノという誰もが認めるカリスマ的な英雄像への極度の傾倒、依存が軍幹部にも拡がっていた。故に、マフノが動かなければ、方針が出ない、逆にマフノが首を縦に振らなければ話が進まないという事態となる。②革命に誠実で軍事的才知に長け勇猛な軍指揮者は幾人もいるが、革命ウク

ライナ内外の全体的な情勢分析や戦略的建設、ウクライナ革命叛乱への連帯の具体的取組み(ex. 黒色インターを通じた全世界の闘う人民へ呼びかけや国際義勇軍編成、軍資金調達の他、ロシアアナキストグループやクロンシュタットなどのアナキスティックな労働者兵士との広範な連携とロシア各地での同時的蜂起等)の構想と戦略を練り上げるアナキスト革命家、知識人が圧倒的に不足していた。③裏を返せば、革命ウクライナにいるのは、口達者で狡猾なボルシェヴィキ党員に対して余りにも純朴で騙されやすく非政治的な農民革命家たちばかりであった。

ウクライナ革命の敗北

これらの革命ウクライナ側の欠陥が結局は、三度目のボルシェヴィキとの共闘によるウランゲリ撃破直後に、マフノの代理を務める 1907 年以来の無政府共産主義者のカレトニク司令官以下のクリミア軍幹部指揮官たちのほとんど全員が「作戦会議」とのボルシェヴィキの誘いに乗って逮捕・銃殺され、マフノ軍の主力は解体した。また、ハリコフのボルシェヴィキ政府との会合に出席していたマフノ軍代表部のヴォーリンらアナキストたちも同時に逮捕拘束されている。マフノ軍幹部や兵士の間では、レーニンやトロツキー、南部戦線司令官フルンゼらの既定路線としてウランゲリの白軍粉砕後にはボルシェヴィキがマフノ軍を背後から攻撃を始めるだろうとの予測が話されていたにも関わらず、この迂闊さは何だろうか。

辛うじてクリミアから脱出しグリャイポーレのマフノの下に辿り着いたクリミア軍の部隊は、騎兵隊長のマルチェンコらのわずか 250 騎のみである。このようにして主力兵団を失ったマフノ軍はトロツキーらの赤軍の猛攻によって、「革命の首都」グリャイポーレを奪われ、解放区内の農村は悉く蹂躙され、マフノの兄ら傷病兵や農民らは徹底的に虐殺された。生き残って捕虜となったグリャイポーレをはじめとするマフノ運動支持の農民の多くが中央アジアやシベリアへと強制連行されて消息を絶った。

中近世以来「ヨーロッパの穀倉地帯」としてロシア帝国やポーランド・リトアニア大公国、ドイツ帝国・オーストリア帝国など近隣の帝国列強から常に収奪され続けてきたウクライナの大地は、わずか 3 年間の革命ウクライナ時代に農民たちのアナキズム的自治を経て、ロシアボルシェヴィキ政権が侵略・占領し、次々と収穫物をモスクワへ搬送した。このウクライナの植民地主義的構造は 70 年後のソ連崩壊まで続くことになった。ウクライナ内戦とその後のソ連の収奪による飢餓で、ウクライナ人民の餓死者は 100 万人から 150 万人と言われている。ソ連時代のウクライナ大飢饉の実態についてはソ連崩壊後の共産党機密文書公開によって漸く研究が始まった段階である。

マフノ運動が残した課題

マフノらが目指したウクライナ革命は、帝国主義列強とその傀儡のヘトマン・スコロパツキー政権や近隣諸国の貴族などの大地主をウクライナから叩き出すことから始まった。一方、西方のキエフで「ウクライナ人民共和国」樹立を宣言したペトリューラら民族主義者は、第一次大戦の単独講和条約を結んでドイツ・オーストリア軍を呼び込み自らの権力の後ろ楯として農民蜂起と自治を抑圧し、収穫物を農村からドイツ・オーストリアへと運び出した。マフノ軍のゲリラ闘争によって追い詰められたドイツ・オーストリア軍は最終的には本国の敗北によって撤退した。他方、北方から侵攻したロシア赤軍がハリコフを占領して「ウクライナ・ソヴィエト政府」を名乗り、ロシアからの軍事力を背景に次々に農民蜂起と農村自治－自由ソビエトを潰して、ボルシェ

ヴィキの権力機関「革命委員会」に置き換え、チェカによってアナキストや農民活動家を逮捕、銃殺した。さらに、東方からは帝政ロシアの復興を掲げる白軍が侵攻してくるという極めて厳しい情況下で、まずは白軍を殲滅した後にボルシェヴィキ問題に対処するとし、赤軍と共闘しながら最終的に白軍を撃破した。このように、ドイツ・オーストリア軍、民族主義者のペトリューラ軍やヘトマン軍、帝政派の白軍、ボルシェヴィキの赤軍などに対して戦いながらウクライナ革命を進めるという困難な事業であった。

ソ連崩壊にともない、反ロシアのウクライナ民族主義が盛り上がり、ウクライナの文化、言語、歴史についての研究・復興、民族主義教育が進められ、かつての帝国主義者の傀儡ペトリューラは「民族の英雄」となり、脱ロシア、親ヨーロッパの政策が取られた。一方で、クリミア半島を2014年に併合したロシアはこの7年でクリミア大橋開通や7万人ものモスクワからの移住者を入植させ、ロシア化を進めてきた。昨年8月にウクライナのゼレンスキー政権が「クリミア・プラットホーム」を呼びかけたことに対して、ロシアは今年4月のクリミア半島併合7周年を機にクリミア半島やウクライナ東部のドンバス地方(ロシア系武装勢力とウクライナ軍との内戦が続いている)の国境地帯にロシア陸軍8万人を集結させて威圧している。対する米帝は第6艦隊の艦艇2隻を黒海に派遣し、ロシアの動きを牽制している。このようにウクライナには、帝政ロシア、ソ連、ロシア連邦など支配体制の変遷に関わらずロシアが絶えず干渉し、体制崩壊後の束の間の解放を挟みながらロシアが軍事力で植民地支配をおこない続けており、現在のウクライナ人民にとって深刻な影を落としている。

マフノ運動を検証し、マフノらの歴史的試みを総括することは、ウクライナ民族主義やEU統合に収斂されることなくウクライナ解放と自由自治への道を再び歩み始める契機となるだろうし、国家と資本主義に対して世界中で闘う人民に対して、スペイン革命と並ぶアナキズム革命の可能性をめぐる議論と今後の運動の方向性へのヒントにもなるだろう。私はこの小論で、アルシノフが結論づけた「アナキズムの破産」とは真逆の結論をそのアルシノフの著作『マフノ運動史』から汲み取った。この小論が新たにマフノ運動に関心を持っていただくきっかけになって、『マフノ運動史』やヴォーリン著『知られざる革命』の他、マフノ軍の機関紙『自由への道』や『マフノ回想録』、亡命後にアルシノフが編集していた雑誌『労働の事業』、マフノが協力した『覚醒』『リベルテール』、その後のマフノ運動の研究等の未翻訳の文献資料群を手がかりにアナキズムの可能性をより深化していく一助になれば幸いである。

望月百合子 ― 近代日本の自由人たち(5)

詩人でロマンチストでなくては難しいでしょうね、アナーキストであることは。

長井風天

1. 望月百合子(もちづきゆりこ)略歴

1900年9月5日(明治33年)　山梨県甲府生まれ
1919年　成女女学校卒業後、読売新聞社(婦人欄)入社
1921年　読売新聞社を退社、フランスへ留学
1925年　帰国
1928年　『女人芸術』創刊に参加、寄稿の他、初代講演部長を務める
1929年　石川三四郎に協力して月刊『ディナミック』を発行
1930年　高群逸子、松本正枝、八木秋子らと『婦人戦線』を創刊
　　『ディナミック』の編集を共にしていた古川時雄と結婚
1938年　満州新聞社(学芸・家庭欄)に入社
1948年　引き揚げ、著述・翻訳作業を続ける
1999年　郷里・山梨県の鰍沢町(現:富士川町)教育文化会館内に望月百合子記念館が開設
2001年6月9日(平成13年)　満100歳にて逝去

2. 生涯

戸籍上では1900年9月5日、望月好太郎の次女として山梨県甲府に生まれる(実際は東京生まれとのこと)。
東京の成女女学校に入学。寄宿舎生活を送る。一級下には堺真柄が在学していた。
在学中、バハイ教(19世紀半ばにイランでバハー・ウッラーが創始した一神教)に入る。日本で最初の信者。男女平等、全ての世界のトラブルは戦争ではなく裁判で解決するといった信条に感激したとのこと。
成女女学校卒業後、読売新聞記者となる。「社会の木鐸(ぼくたく:世人に警告を発し、教え導く人)なり」という理想を抱いていたが、内情を知り落胆する。しかし自分だけでも清廉潔白・公平無私の態度を保持しようと努めたという。名流夫人の訪問記事を嫌い、作家訪問の取材に異動。広津和郎、与謝野晶子、宇野浩二、有島武郎、江口渙ら作家たちと親しむ。
1921年、読売新聞社を退社。早稲田大学哲学科東洋哲学の第1回聴講生となる。その間、農商務省の留学生試験を受け、ハチミツの研究をテーマに3年間のフランス留学が認められ、父(パパ)と呼ぶ石川三四郎と共に農商務省の留学生としてフランスに渡り、ソルボンヌに留学。西洋史を専攻(ハチミツに関するレポートも毎月送っていたとのこと)。ポール・ルクリュ、竹林無想庵らと交流。
1925年帰国。小説家の長谷川時雨を中心とする『女人芸術』に参加(1928年7月創刊)。1930年3月、高群逸枝、松本正枝、八木秋子、平塚らいてうらと『婦人戦線』を創刊、アナキスト系論客として女性解放を訴え、講演・翻訳等で活動した。同年、『ディナミック』の編集を共にしていた古川時雄と結婚。この頃、画家の竹久夢二が描いた掛け軸のモデルを務めた。一時、カリエスで闘病。
1938年、満州に渡り、『満州新聞』の記者となる。大陸文化学園、丁香女塾を開く。
1948年帰国。戦後も翻訳や評論を続け、歌人としても活躍。
1994年、古川時雄が死去。
2001年6月9日、満100歳で亡くなる。

『女人芸術』1929年5月号
口絵写真

3. 望月百合子の女性解放論

(1)「婦人解放の道」
『女人芸術』創刊号[1928年8月]の巻頭論文より抜粋(現代仮名遣いにて表記)

たとえ婦人が参政権を得、あるいは官吏に就職する権利を得、またその他職業上における男子と平等の権利を得たとしても、それには法律上の平等権にすぎず、文字の上の平等権にすぎず、あるいはきわめて特殊な婦人にのみ適用される権能にすぎないでありましょう。そして一般婦人は依然として哀れむべき奴隷の境涯に苦しみを忍ばなければなりますまい。単なる婦人参政権の獲得、単なる職業上の平等権等は、いささか婦人の意気を高め、婦人の自覚を促す助けにはなるでありましょう。それゆえこれを全然無益な運動だとは申せません。がしかし、こうした権能の獲得によって、従来、同情同感の同性的共同戦線に立ってきた婦人同志の間に、新らたに階級的差別が生じてまいります。すなわち今日の社会におけるブルジョア階級と、プロレタリア階級との差別と同じ差別が、新らたに婦人同志の間に起こってくるのであります。
(中略)
以上、述べましたところによって、婦人の解放ということは、同時に人類そのものの解放を伴うものでなければならないことを説いたつもりです。婦人職業問題だの、婦人参政問題だの、いずれも多少の意義はありますけれども、婦人解放の道程においては、むしろ岐路に属するものでありまして、その本道は別に見出されねばなりません。私達はその道を進むべく、単に婦人全体でなく、男子全体をも抱擁しうる自由と平等と相互扶助の精神を体した、連帯生活を打建ててゆくことに努力しなければならないと思います。そしてこの進路に横たわる、あらゆる障害と闘って、自由の天地に自分達を進めてゆかなければなりません。

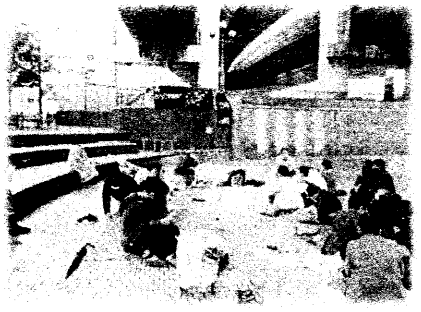
(2)『婦人戦線』のスローガン
一、われらは強権主義を排し自治社会の実現を期す。
標語　強権主義否定！
二、われらは男性専制の日常的事実の曝露清算を以て、一般婦人の社会的自覚にまで機縁するための現実的戦術とする。
標語　男性清算！
三、われらは新文化建設および新社会展開のために、女性の立場より新思想新問題を提出する義務を感ずる。
標語　女性新生！

4. 著作・翻訳
歌集『幻のくに』、著作『限りない自由を生きて』、訳書にアナトール・フランス『タイース』、シャルル・ボードレール『ロマン派の絵画』、フレデリック・ポンソンビ編『ヴィクトリア女王の娘』など。

メーデーさりげなく ~その辺のわきまえない人たち

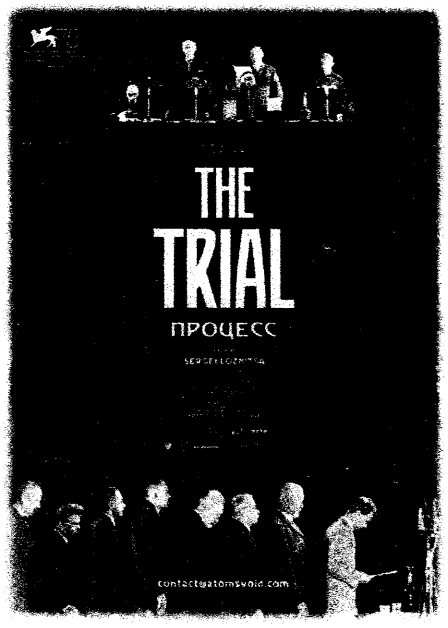
今年も大阪で黒い関係のメーデーが取り組まれました。今年のメーデー名称は「メーデーさりげなく」(主催：その辺のわきまえない人たち)。5月1日の夕方。雨の中、約30名の有志たちが高架下の西梅田公園に集まり、自由労働者連合から開会の挨拶の後、各現場・団体からのアピールや茨城反貧困メーデー実行委員会からの連帯メッセージが読み上げられました。その後、3つのグループに分かれて新型コロナに関する討議・集約をおこない、市庁舎前までデモをおこないました。

以下は、秋になってから「メーデーの報告を書いてくれ」という編集部の要請（押しつけ？）に応えたメーデー呼びかけメンバーのひとりの苦悶の記事です。少し長い為、後半部はブログにて公開予定です。温かい目でご笑覧ください。(編集部)



金羽木徳志

去年の12月、セルゲイ・ロズニツァ監督の＜群衆＞ドキュメンタリー3選の映画『粛清裁判』(オランダ・ロシア／2018) を観た。粛清裁判というのはスターリン時代のあの粛清裁判である。と言いたいところだけど、実はドキュメンタリーではなく架空の物語だ。つまり、「産業党事件」の8人の被告役と、とりあえず「ソ連刑法58条違反！」と言って、罪状を述べる裁判官役や検事役によるお芝居である。そこに「スパイを殺せ！」とか「裏切り者！」とか叫んで裁判所を取り囲む群衆の映像とを組み合わせた映画なのだ。旧ソ連で「お前はソ連刑法58条違反だ！」と言われたらもう終わりである。罪状らしい罪状がなくてもその一言で犯罪者にされてしまうオソロシイ法律なのだ。戦争末期に中国でロシア語を話した日本兵が「ソ連刑法58条違反」でシベリアに送られたこともあった。こうなるともう「戸締り用心、火の用心」、「口に閂、心にタスキ」で「しまった口にしまったなし」どころではない。「スパイらしくないスパイに街のニュースは踊る」のである。

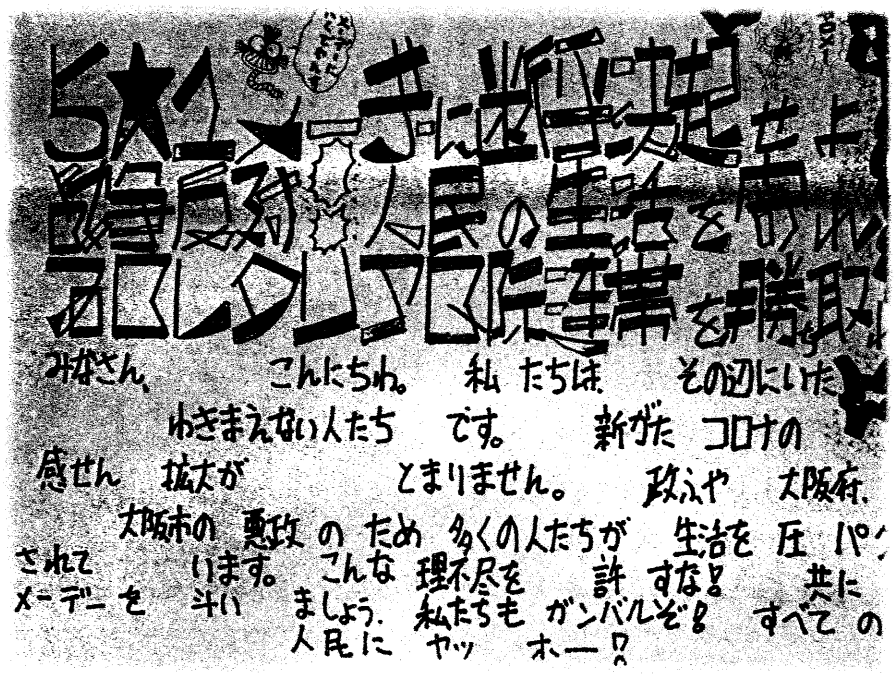


しかし、この映画がプロパガンダと気づかなかったわたしは群衆が放歌する「革命歌」を一緒になって歌い、革命ってこんなにすごいんだ！と納得したのだった。それは南米チリのアジェンデ政権がピノチェトによるクーデターで崩壊した時のドキュメンタリー映画を観た時もそうだった。人々がストライキに起ち上っている姿（実はピノチェト側に組織された反アジェンデの労働者たち）にわたしは思わず号泣し「よし！明日からもガンバロー！」と決意を新たに固めたのだった。というより、アジェンデ大統領が立てこもる大統領府爆撃されてるじゃん！しかし、世間にはわたしのようにおめでたい人はいるらしく、30 年前のソ連崩壊のニュースを見て共産主義に感銘して活動家になった人もいた。レーニン像が引き倒されているのに…。

たぶん、わたしたちは人々がヤーヤー闘ってれば嬉しくなるのだろう。それだけなら近所の火事や夏祭りと大して変わらないのかも知れない。そんなわたしにとってメーデーは重要である。お正月が明ければ、もうメーデーだ！たとえ外が吹雪で大雪であっても心はすでに晴れたる五月だ。そして、メーデーの次は 8・15 の反ヤスクニ。それで一年は終わりである。とにかくメーデーをしなければ年が越せないのだ。

さて、20 年前、大手の労働組合のメーデーに行った時のことである。参加者たちは暑いのでビラの束を団扇がわりにしたり、日除けに使っていた。何だか気だるい感じだった。まず何よりも眉間にシワをよせて肩肘はってる左翼に五月晴れは似合わないと思った（メーデーなのに）。来賓の国会議員のとてもありがたいお話の後、司会者が行動提起をする。

なんとデモ行進の後、デパートの屋上のビアガーデンで交流会をするというのだ。わたしは「こんなのメーデーじゃない！」とガッカリした。その時からここのメーデーに行く気がなくなった。…今、書いててもテンションが下がる。



そんなわけで、わたしたちはこんな退屈なメーデーに見切りをつけて5月1日「その辺のわきまえない人たち」による「メーデーさりげなく」を闘った。居酒屋談義のノリというか、そうだ！正面切って言うなら酸いも甘いも知りすぎた（ヤマイモではありませんよ！）50代からのオトナ（チョチクもPTA会長も縁がないけど。シサンウンヨウってなに？）のホームパーティーのあの雰囲気！（そういうおよばれに行ったことがないのでよく知らないけど）で決まったようなメーデーに、主催団体名もメーデーの名称も特に意味はない。ダサヨ（ダサい左翼の意）とか大スベりなんてもんじゃない。わざとずらしているのかと言いたくなるほどだ。50代の一部の人のハートには超ドストライクでも、圧倒的多数の人民には…なにそれ？であり、なんだ、またあの「今週の奇人変人コーナー」か？だ。しかし、ネーミングは？であってもメーデーの内容は新型コロナの問題を軸にいったい何がどうなっているのかを参加者で分科会形式で討議し、そのための資料も人民新聞からニューズウィークからフォーリンアフェアーズ誌まで用意しようという特大場外ホームラン級である。

しかし、所詮はヨッパラっって決めた企画だ。大事なのはそういう話をしている時が楽しいのであって、実際やるか、やらないかは大した問題ではない。何だかよくわからないことになってるのがニンゲン的魅力かもしれない（やかましいわ！）。子ども向けのお話に、猫が集まって劇団を作ったが、発表会当日は観客も来ず、猫たちもお芝居もせずお弁当食べて昼寝してたというのがあったが、まさにそれだ。もしくはおもちゃのチョロ Q のように勢いよく飛び出して壁にぶつかったら終わりのどちらかである。そんなしあわせさんたちのメーデーの報告を 9 月の半ばにもなって大急ぎで書かされるのだ。はっきり言っておぼえていない。「その辺のわきまえない人たち」？「その辺にいたわきまえない人たち」？どっちだ？当日の資料には両方書いてある。オイオイ。だいたい家を出た途端にガスの元栓を閉めたかどうか気になり家に引き返し、改札口で自転車の鍵はどこやった？とかばんの中をガサガサして電車に乗り遅れるばかりか重要書類を忘れている者に 5 月頃のことを書けというほうがムリである（心身は世間並みに 50 代になっていた！）。問題はそれだけではない。本当ならきんちゃんがメーデーの報告を書くことになっていたのに失踪してしまったのだ！？（以下、ブログに公開予定）

『広島復興の戦後史－廃墟からの「声」と都市』を読む会

鷲尾 拓

かつて広島の爆心地に「原爆スラム」と呼ばれた街がありました（現在の広島市中区基町）。いまでは広島市民の記憶からさえも半ば忘れられた街です。

原爆で全てを奪われながらも生き延びた被爆者がその土地にバラックを建て、被爆者間の格差や矛盾など様々な「痛み」を持って身を寄せ合い、重度の被爆やその後の原爆症で苦しみながらも助け合って生きぬき、やがて「戦後復興」の中でとり残されます。そして、いつまでも原爆の記憶を引き摺る「不法占拠者」として、いち早く生活を再建したその他の広島市民からは蔑視され、行政からは追い出しの圧力をかけられます。「戦後復興と平和都市建設」の名のもとに街は強制撤去され、その土地の上に広島平和記念公園と旧広島市民球場が建設されました。

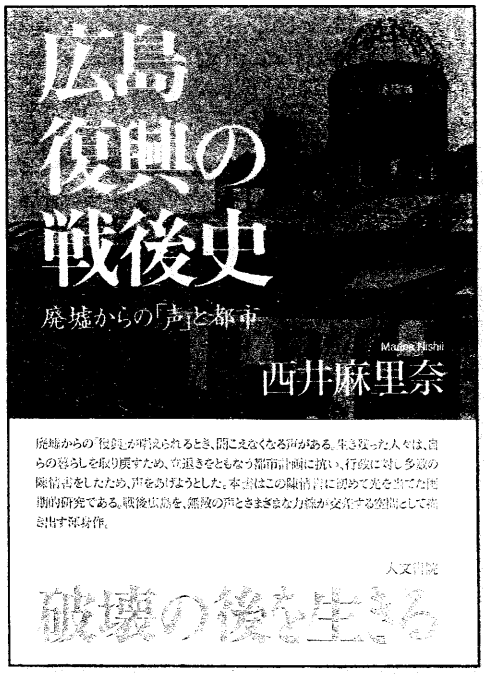
広島の爆心地で戦後復興と平和都市の名の下に何が行われたのかを探り知ることは、侵略戦争と戦争責任、格差と貧困、震災復興や福島原発事故、コロナ禍における様々な不公正など現在の私たちが絶えず問われ続けている課題へと繋がっているものと考えています。

被爆した広島の復興についての記憶と記録を掘り起こし、丹念な調査研究を積み重ねてこられた西井麻里奈さん（大阪大学文学研究科助教）の渾身作『広島復興の戦後史－廃墟からの「声」と都市』（人文書院／2020）を読みながら、私たちは広島の「復興」、そしてかつての「原爆スラム」について学んでいます。

ご興味のある方は、ご都合のあう時だけでも結構ですので、お気軽にご参加ください。

【会　場】 大淀コミュニティセンター
〒531-0074 大阪市北区本庄東3丁目8-2
【連絡先】 『広島復興の戦後史』を読む会
free_workers_federation@riseup.net
【資料代】 500円

※資料やレジュメの準備の都合上、
事前に連絡いただければと思います。



第 47 回 橘宗一少年墓前祭

浦底平吹

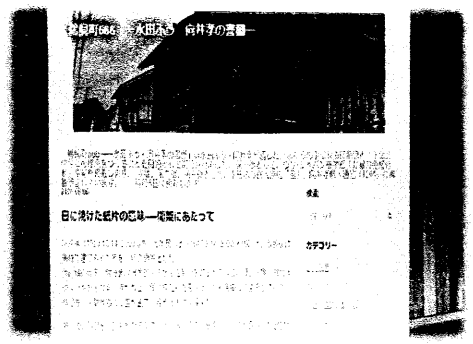
2021 年 9 月 12 日。コロナ禍で昨年同様に講演会は中止となり、墓前での法要のみ執り行われた。今年で大杉栄、伊藤野枝、大杉栄の末妹の大杉あやめの息子の橘宗一（当時 6 歳）が国家の犬によって殺されて 98 年を経た。大杉あやめについては『アナキズム文献センター通信』57 号（2021.6）に「幻に終わった大杉あやめの『婦人戦線』」（蔭木達也さん）という論考が掲載されているので参照していただければと思う。

少し小雨がまじるいつもよりも暑くない日泰寺の墓域は変わらず静かだ。違うのは、いつも参列者のなかにおられた真辺致一さん（7 月 5 日逝去）のニコニコとした笑顔がもう見られないこと。10 月に開催された吉倉共同文庫の見学会の後、四ッ谷事務所で真辺さんが遺したたくさんの書籍や資料の整理を手伝っていると、真辺さんがもうこの世にいないことを改めて実感し、寂しい気持ちになった。

コロナ感染拡大の状況から 2022 年度に延期になった講演会は、大杉栄の甥であり、橘宗一の従兄弟の大杉豊さんを講師に迎えることが確認された。また、新しい動きの一つとして、向井孝さん、水田ふうさんを看取った名古屋の同志たちがブログ『鵜飼町 666－水田ふう 向井孝の書棚－』http://inuyama21686.hatenablog.com を立ち上げた。これは孝さんやふうさんが遺した無数のパンフ、雑誌、機関紙などの文献資料を一つ一つスキャナーで PDF に取込んでネット上の書棚として一般公開し、孝さんやふうさんが遺した紙片を通じて未知の仲間との接点をつくることを目的とするものだ。根気のいる仕事であり、頭が下がる思いだ。

1976 年に発見された「死因鑑定書」以降、大杉らの死をめぐる研究は進んでいるようにみえるが、ここ最近の立派な刊行本の中には相も変わらず「麻布三連隊説」（ねずまさし著『日本現代史 4』三一書房／1968）を無批判に紹介するに留まるものがある（保坂正康著『陰謀の近現代史』朝日新書／2021）。『アナキズム』18 号に手塚登士雄さんによる批判論文が掲載されているので、関心のある方は是非お読みいただきたい。私も、大杉ら 3 人が殺害された東京憲兵隊本部跡を辿ってみたいと思う。また、朝日新聞出版を通じて著者の保坂氏が検討の結果、増刷の際は必ず修正する旨の連絡があったという手塚さんからの報告も付け加えておきたい（『アナキズム』20 号）。

再来年の 2023 年は関東大震災を契機とした朝鮮人大虐殺や大杉ら無政府主義者、労働運動活動家の殺害など忌まわしい虐殺から 100 周年になる。宗一少年の父親の橘惣三郎が官憲の監視を掻い潜って「大杉栄 野枝ト共二犬共二虐殺サル」と刻み込んだ墓碑（1927.4.12 建立）は今を生きる日帝足下人民に記憶の継承を強く迫るものなのだと私は受け止めている。100 周年以降の墓碑保存の道筋とともに少なくとも関東大震災下に起きた数々の事件をどのように語り継いでいくのかが 100 年後を生きる私たちに問われている。



シリーズ パンデミック（1）

三蔵法師のノミとペスト医師と光明皇后

金羽木徳志

今なお猛威をふるう新型コロナウィルス、つまり感染症ですが、その歴史は人々の移動の歴史でもあったと言っていいかも知れません。はやい話では奈良の都を滅ぼした 8 世紀の天然痘、中世ヨーロッパで感染爆発した 13 世紀のハンセン病、14 世紀のペスト、16 世紀の梅毒、19 世紀のコレラ、結核…とあげることができるでしょう。ここで思い出すのが、TV ドラマ『西遊記』です。夏目雅子演じる三蔵法師が堺正章演じる孫悟空からノミを移されたと言って突如現れた偽母上（妖怪）に愚痴ります。そして、母上に化けた妖怪が三蔵法師を惑わして天竺への旅を阻止する魂胆で当然打倒されるといった毎回おなじみのご講釈です。それにしても、人々を救うための天竺への旅でたかがノミ一匹によってペストの感染爆発を起こしかねないとすれば、何とも危うい一線ぎりぎりの白道ではありませんか。もちろん、そんなことは TV ドラマにも原本にもありませんし、それは話の膨らませ過ぎ、妄想の拡げ過ぎと言えばその通りでしょう。しかし、それでもリアルに天竺への旅を考えれば、その可能性は否定できないのではないでしょうか。現に日本への天然痘は仏教の伝来とともに伝播してきたのですから。

シルクロード、ローマへの道、天竺・ガンダーラへの旅…。その街道にそびえ立つ幾つもの山脈、そして砂漠。お望みならそこに海や大河、急坂を入れてもいいでしょう。しかし、旅人たちの足をすくませるのはこのような地形的な条件だけではありません。そこは旅人や村を襲ってシノギを削る山賊、盗賊、追い剥ぎ等の不逞の輩の根城でもあったのです。もちろん、海のシルクロードには海賊が旅人を虎視眈々と狙っていたに違いありません。今日も明日もじっと手をみる、足をみる…。

そんな生き方しかできない、それだけが、それこそがすべての村の定住者たちにとっては、このような諸事情はこちらとあちらを隔てる日常と非日常であり、現世と常世であり、何よりも山脈に縦横無尽に走る無数のアイスフォール、クレバスがその現実を物語っています。それはもう、月の砂漠をはるばると旅のラクダがゆきました～♪と言うような生やさしい、甘ったるいものではありません。しかし、そうは言っても山の向こう、海の向こうにも自分たちと似たような者たちがいるだろうぐらいのことは解ってはいても、やはり山の向こう、海の向こうは異界であり、死者の国でしょう。それは越える

ことを許さない山の向こう、海の向こうにいる者たちにしても同じことです。

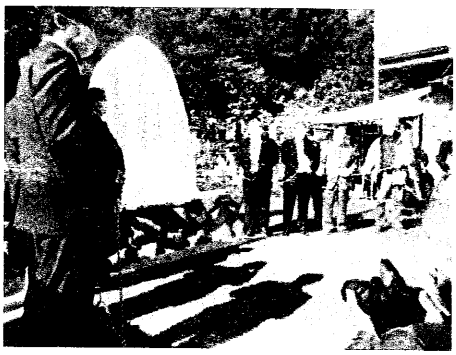
そんな村の定住者たちにとって三蔵法師一行に限らず、シルクロードやローマへの道を旅する通商のキャラバン隊、文化芸能集団、宗教者、遊牧民たちとはまさにマレビトであり、こっちとあっちを行き来するサエの神であり、憧れと畏敬と異形の存在だったに違いありません。と同時に、時として天然痘やペスト、マラリアなどを持ち込み疫災をもたらす賤形、悪魔の化身と見られたことも間違いないでしょう。

ドイツ西部の古都トリアーには中世のハンセン病者に対する当時のお触書き（どこへ行くにも他人にわかるように、必ず専用の上着を着て、何か買いたいと思う時は杖以外のもので触ってはいけない）が残っています。黒いマントを着て手袋をして、背の高い帽子を被って杖を持ち、笛を吹くなり、木片を叩くなりして一目で何者かであるか分かるように化せられるハンセン病者と、長いガウンを着て長靴を履き、杖を持ちつばの広い帽子を被って、くちばしのついたマスクとメガネをかけて一目で何者かと分かるように化した「ペスト医師」とは傍からみてどれだけ違うのでしょうか。それも「ペスト医師」と言うものの名ばかりのヤブ医者であり、平時は食いあぶれる者です。いつ、ハンセン病者の隣で道行く人々に叩頭することになってもおかしくない身です。しかし、ひとたびペストが感染爆発すれば、診察、治療と称してここぞとばかりに稼ぐハゲタカ、死神の類いです。このような同時に天然痘やハンセン病の感染者、ペスト医師に対する眼差しは、畏敬、異形、賤形への眼差しでもあるのではないでしょうか。

いま、私にはシルクロードや中世ヨーロッパについてこれぐらいの粗い見方しかできませんが、少なくとも日本列島各地には疱瘡神信仰や聖徳太子の片岡山伝説に代表される「隠身化身」というものがあります。即ち神や仏が現れる時は賤しく、汚らしい姿という賤形かつ異形のものです。光明皇后の慈悲行として持ち出されるハンセン病者との出会いに見られるように感染症の病者が神格化されたことも事実なのです。しかし、だからと言って、現在の皇族に光明皇后の施浴伝説と同じことをやれ！と要求などしていません。光明皇后が貧飢の人々の身体を洗い、ハンセン病者の膿をすすったからと言って現天皇に新型コロナの感染者を看病したり、野宿者支援ができるわけではありません。しかし、現「結核予防の会」名誉総裁のアキシノノミヤ紀子が、長い間、国策として結核対策から放置されてきた寄せ場の日雇労働者に関心を持つことはまかり間違ってもないですし、何かしらのチャリティーイベントにそのチャリティー募金よりもはるかに莫大な警備費を使って出席する皇族はイヤミでしかありません。（続く）

幸徳秋水生誕150年記念『非戦の碑』除幕式に参加して

瀬木　宣夫



2021年11月14日、防衛省による宮古島・保良弾薬庫への地対空・地対艦ミサイルを含む弾薬の搬入が強行され搭載した車両15台が基地内に入った。

1904年1月17日に発行された、『週刊平民新聞』10号に幸徳秋水は「吾人は飽くまで戦争を否認す」と云う非戦を訴える文章を記した。今年は秋水生誕150年、大逆事件による秋水らの処刑から110年でありそれを後世に残すために「非戦の碑」建立を目指し300万円を目標に昨年から寄付を募り、480万円も寄せられ、この11月3日、秋水の墓がある正福寺境内で除幕式が行われた。

式は秋水を顕彰する会・宮本氏の挨拶に始まり、大逆事件を明らかにする会・山泉氏、四万十市長、森近運平を語る会・森山氏、管野須賀子を顕彰し名誉回復を求める会・上山氏、大逆事件を明らかにする兵庫の会・津野氏、幸徳家代表・幸徳征夫氏からの話がなされた。

「碑」の文章は、

凡ての時と所とに於ける凡ての罪悪を集むるとも決して一つの野戦に依りて生ずる害悪に過ぐることなし（ヴォルテール）　戦争は人間の財産及び身體に関してよりも人間の道徳に関して実に大なる害悪を為す（エラスムス）　大砲と火器は残忍にして嫌悪すべき器械なり、予は信ず、是れ悪魔の直接の勧奨によりて生ずる者なるを（ルーデル）　時は来れり、真理の為に、正義の為に、天下萬生の利福の為に、戦争防止を絶叫すべきの時は来れり。　**……吾人は飽くまで戦争を否認す、之を道徳に見て恐る可きの罪悪也、之を政治に見て恐る可きの害毒也、之を経済に見て恐る可きの損失也、社会の正義は之が為めに破壊され、萬民の利福は之が為に蹂躙せらる、吾人は飽くまで戦争を否認し、之が防止を絶叫せざる可らず。**　嗚呼朝野戦争の為に狂せざるなく、多数国民の眼は之が為に昧み、多数国民の耳は之が為めに聾するの時、獨り戦争防止を絶叫するは、雙手江河を支ふるよりも難きは、吾人之を知る、而も

吾人は真理正義の命ずる所に従って、信ずる所を言わざる可らず……（太字部分が碑に刻まれる）

日露戦争は国民の熱狂と指示によって向かい入れられた。状況は今日と全く同じである。幸徳の『平民新聞』に記載された文章はロシアをはじめ世界中に翻訳され伝わったと云われる。秋水は抑制をして文章を書かざるをえなかった。事実その翌年には禁固５か月の拘留を受けている。単に愛国主義や軍国主義への批判ではなく、戦争の本質を知っていた。帝国主義であり資本主義にその原因を理解していた。その認識は全く正しいと言える。

除幕式後、市の文化センターで山泉進氏の「幸徳秋水の遺産」と題し講演と質疑が90分ほど行われた。山泉氏は幼少の頃四万十市で育ったので幼馴染の人も参加をしていた。

秋水の墓の裏手を登ると、市の郷土資料館があり秋水関係の資料を常設している。その傍には秋水絶筆の『偶成』の碑がある。これは死刑宣告を受けた日に看守が求めて書いてもらった有名な文である。

区々たる成敗　且く論ずるを休めよ　千古　唯だ応に意気を存すべし

是くの如くして生き　是くの如く死す　罪人　又た覚ゆ　布衣の尊きを

死刑宣告之日偶成

こまごまとした成功失敗について、今はあげつらうのはやめよう　人生への意気を捨てぬことこそ、古今を通じて大切なのだ。このように私は生きて来て、このように死んでいくが、罪人になって、あらためて無官の平民の尊きを覚えることができた。　（一海　和義　訳文）

秋水は中江兆民の民権思想から、アメリカに渡り社会主義者らと交わり帰国後は「無政府共産主義」へと変貌していった。かつて『労働運動社』で新聞記事に詰まっていた時、村木源次郎は「秋水が云ったこと、書いたことを載せればいい。秋水の中に全てがある…」と語ったそうだ。秋水からまだまだ汲み取れるものが沢山あるようだ。（未）

管野須賀子刑死 110 年の日に墓前にひとり佇む

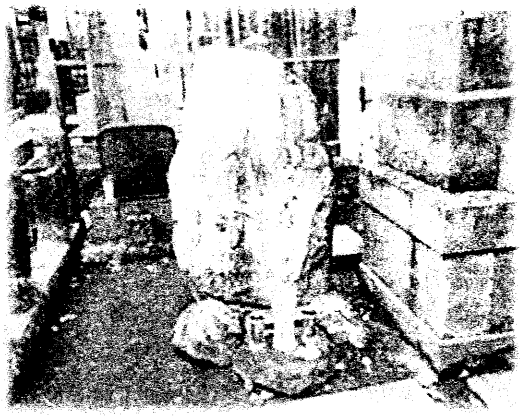
K

昨年 2020 年は、110 年前いわゆる大逆事件が起こった年である。その判決は死刑 12 名、死刑から無期懲役に減刑 12 名、有期懲役 2 名。翌年 1 月 25 日、アナキスト同志宮下太吉、新村忠雄、古河力作、そして幸徳秋水たち無政府主義者、また社会主義者 11 名が国家により処刑された。26 日には唯一の女性管野須賀子(本名スガ)がくびり殺された。

1 月 24 日、管野須賀子の墓に行った。東京都渋谷区代々木三丁目(甲州街道の初台駅と新宿駅の間)、正春寺にひっそりと彼女の墓はある。決して大きくない石の墓には「くろがねの窓にさしいる日の影の移るを守りけふも暮らしぬ　幽月獄中作」とあったが、今はかすれてほとんど読めない。

墓の裏には「革命の先駆者管野スガここにねむる 1971 年 7 月 11 日大逆事件の真実を明らかにする会これを建てる」とある。「明らかにする会」の活動には、無期懲役に減刑された坂本清馬の戦後再審請求、各地での顕彰碑建立など大逆事件のフレームアップに対する名誉回復に敬意をはらう。

しかし、大逆事件は山縣有朋を頂点とした時の政府によるでっち上げの側面はあるが、管野、宮下、新村、古河による明治天皇ムツヒト暗殺計画は確実に存在した。その手段は爆裂弾である。彼女、彼らが国家により虐殺されてから 101 か年、私たち数名のアナキストが集まり、彼女に黒ビールで献杯した。



それから 10 年。コロナ状況下の強風吹きすさぶ雨上がりの日、ひとり同志管野須賀子の墓の前に佇む。彼女の写真立てを前に線香がわりのタバコを手向け、ブラックコーヒーとブラックビールを供える。

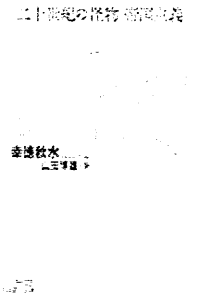
そして最後にアナキストの歌を高らかに歌う。

「来たれ牢獄、絞首台、これ告別の歌ぞ」

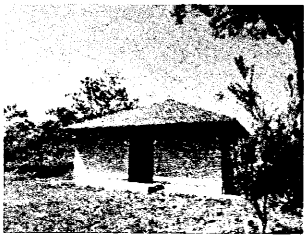
活動抄録

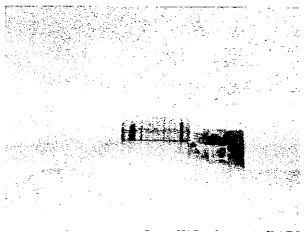
アナキズム読書会(月１回)

幸徳秋水著『二十世紀の怪物 帝国主義』(～7／27 読了)
H.M.エンツェンスベルガー著『スペインの短い夏』(1／26～講読中)
玉川信明著『FOR BEGINNERS アナキズム』(9／28～講読中)



吉倉共同文庫 見学会 (2021.10.2)





千葉県八街市の吉倉共同文庫の見学会にメンバーの一人が参加しました。写真で拝見する以上に立派な新書庫でした。また、広い敷地と大きな母屋もあるため、ちょっとした屋外集会や合宿など色んなイベント会場に活用できるのでは。年末から図書の搬入も始まるので、折を見てまた見に行きたいと思います。「文献センターの書庫」としての体制づくりなど吉倉共同文庫の設立の経緯と役割については『アナキズム』第 19 号 (2021.10.1) の奥澤邦成さんの報告を参照ください。

『広島復興の戦後史』を読む会 (3／16～ 月１～2 回)

この著書をテキストにしながら軍都広島と平和都市ヒロシマの内実を様々な資料を駆使して読み込みます。また、原爆投下直後の軍部やヒロヒト周辺、医師、ABCC と協力者の動きなど参加者が関心のある部分をさらに深堀していきます。

【表紙写真】
中央がマフノ。カレトニク (左) とシチューシ (右) が写っている。
【裏表紙の写真】
マフノ軍の軍旗。書かれたスローガンは「労働者の自由の獲得を妨害する者たちに死を」
この黒旗を掲げた幌馬車やタチャンカを先頭に進軍した。

目次

★『マフノ運動史』を読み終えて
★近代日本の自由人たち(5)望月百合子
★メーデーさりげなく
★『広島復興の戦後史』を読む会
★橘宗一少年墓前祭
★パンデミック(1)三蔵法師のノミとペスト医師と光明皇后
★幸徳秋水「非戦の碑」除幕式
★菅野須賀子墓前祭
★活動抄録

編集後記

◆コロナウイルスに世界中が翻弄されて2年近くになる。有効な対策をまともにおこなわず、「自宅待機」という医療放棄でたくさんの人命が奪われた。SARS、MARSの流行を対岸の火事として傍観し、行政が果たすべき保健医療業務を「身を切る改革」でズタボロにされた大阪はとりわけ悲惨である。これだけの人命を奪った維新が衆議院選挙で圧倒的に支持された大阪。この2年間、大阪府知事・吉村が毎日のように関西系メディアに露出して「コロナ対策で頑張っている」感をアピールしてきた成果もあるが、それよりも「コロナ対策で野党は何もしなかった」ことが惨敗の最大の要因であることを野党は肝に銘じるべきだ。◆与党政府や維新府政のコロナ対策を批判する野党のあなたたちはこの2年間、苦しんでいる私たちの為に何をしてくれたのですか？地元に足を運び、私たちの声を聞いてくれましたか？あなたたち野党の政治家もステイホームしていたのですか？選挙の時だけやって来て「どうかお願いします！」など都合がいい話ですね…そんな人々のあきれた声や冷たい視線を感じていないなら政治家など早く辞めたほうがいい。パンデミックという非常時で与党政府や大阪維新が散々ヘタを打ってきたにも関わらず、投票率が戦後3番目に低く、批判票の票田である無党派層が1割しか動かなかったことは、「政治は当てにならない、自分の身は自分で守るしかない」という民意の表れではないか。議会制民主主義の挽歌が聴こえてきそうだ。◆7月16日、東京・武蔵野の五輪「聖火」セレモニーでバクチクを鳴らしたとして仲間が弾圧・起訴された。警備会社の業務を妨害したという容疑だ。現在も立川拘置所に拘留され、11月26日に初公判がある。圧倒的な反弾圧の布陣で反撃しよう。パクられた仲間の解放と無罪を勝ち取る為に関西でも反弾圧連帯集会を準備したいので協力を是非お願いしたい。五輪有罪、バクチク無罪！◆来年はサン・ティミエ・インターナショナル創立150年である。サン・ティミエ現地では世界中のアナキストに呼びかけた大きなイベントや会議が開催される予定だ。改めて国際アナキズム運動史を紐解きたくなり、ネットラゥなどを読み直している。◆漸く21号が発行できました。カンパや叱咤激励してくださる購読者の皆さん、早くに原稿を寄せて頂いた同志たちには大変お待たせして申し訳ありません。次号は冬号を目指します。

発行：自由労働者連合
宛先：〒540-0038 大阪市中央区内淡路町1－3－11
　　シティコープ上町402号室　市民共同オフィスSORA
電話：０６－７７７７－４９３５（呼び出し）
Mail：free_workers_federation@riseup.net
URL：http://federaciodechifonproletoj.wordpress.com/

カンパ送り先：
郵便口座番号　00960－6－145783
加入者名　自由労働者連合

2021年11月24日発行
1部300円